

## バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第59回日本植物学会
演題名	シロイヌナズナ花茎切断処理による遺伝子発現の誘導と植物ホルモンの関与
発表者	松岡啓太、湯本絵美、奥川大樹※、齋藤朴※、中原陽平※、横田孝雄、 <u>山根久和</u> 、佐藤忍、○朝比奈雅志(植物生理学研究室) ※卒研生または大学院生
内容	本研究ではシロイヌナズナ花茎切断後24時間以内に生じる植物ホルモンと遺伝子発現について調査した。この結果、切断処理を行った花茎のJA内生量は切断後30分以内に上昇すること、IAAの傷の上部への蓄積は、切断1分後から30分以内に開始することが分かった。切断部位におけるANAC071及びRAP2.6L遺伝子の発現は、切断処理後3時間以内に誘導されることが明らかとなった。以上の研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、科学研究費補助金(若手B)による支援を受けて行ったものである。
関連画像	 <p>植物ホルモンの分析に使用した質量分析計 (LC-MS/MS)</p>